

仏教界向け講演会資料（平成 29 年 6 月実施分）の公開

発表者 埼玉県 見性院 橋本英樹

◎講演会等ご要望の団体の方は、ご参考にしていただければ幸いです。

今日の寺院を取り巻く環境と試み

- 本堂葬儀を推進した理由と現在
- 檀家制から会員制へ（移行の経過報告）
- 大家族制による集団的指導体制による寺院運営の効率性・合理性
- 檀家制撤廃による弊害と発展性
- 寺院衰退の今、主な原因→法事の減少と寺院墓地販売の不振
- コミュニティーの崩壊→少子高齢化、人口減少、自営業者たちの後継者難等、地方消滅化の問題



— お寺を元気にし、日本仏教界を再生させる方法 —

私が考え、試みた事柄。挑戦していること。みんなで生き残る方法は果たしてあるのか。サバイバルへと突き進むのか。共存共栄の道を模索しながら切磋琢磨して自己研鑽に勤しむ。淘汰の現実も受け入れながらセーフティネットをつくり、救済策も同時に考える。



→ 檀家制撤廃によるメリット

- メディアの取材が殺到
- 永代供養利用者の増加
- 霊園開設による順調な販売実績
- 送骨サービスによる全国からの利用者の増加
- 有志僧侶グループの活性化、人員の増加
- 雇用者拡大による運営の円滑的効率化
- 新信徒の増加
- 檀家の視線を全く気にせず生活や仕事ができるようになった意義は何にも増して大きい。
- 檀家最優先から経済優先に方向転換することで収益倍増となる。縛られない優位性。

→ 檀家制撤廃によるデメリット

- 近隣寺院・地元旧檀家の一部からの反発
- コミュニティー崩壊の助長への懸念
- 檀家意識・地域の結束からのほころび

※ 撤廃によるメリットの方がはるかに大きかったと思う。人間関係の拘束からの脱却は何にも増して有益だった。お寺はある意味、人材の宝庫、有能な人を採用して様々な企画を推進し、実現していた。このことは「お寺の企業化なしに護持発展はなし」のモデルケースになったことだけは少なくとも言えていると思う。

お寺が行っているイベント・仏事の有効性・費用対効果（私見）

- 葬儀・法事 ◎→将来 ○
- お盆供養・施食会 ○
- 花まつり・涅槃会・彼岸会等 ○
- 写経会 ○
- 坐禅会 ◎
- 梅花流詠讃歌の会 ◎→将来△
- イベント（音楽コンサート・落語会・講演会等）△
- そうじの会 ○→将来 △？
- 団参など各種旅行会 ○→将来 △
- 人生相談等 △
- 仏事相談 ◎
- 僧侶派遣（お坊さん紹介）◎
- 永代供養 ◎
- 水子供養 ◎
- 動物供養 ◎
- お茶飲みサロン会 △
- そばの会 △ または ×
- 結婚相談所・婚活クラブ △ または ×
- 加持祈祷 ◎→将来 ○ △ ？
- 晋山結制・本葬・開山忌等 ◎ ？→ △

※ お寺や宗教と直接関係のないものは成功しにくいとおもわれる。

私が試みたことで成功していること（よかったと思われること）

- 定年後の出家者養成による労働力不足の解消、低賃金での採用化。
- 檀信徒に仏事等を強要せず自ら選ばせることで満足感を与えている。
- 檀信徒と一定の距離をとることで寺院主導體制を構築できる。
- 打って出たことにより様々な試みがトップダウン的で速やかに具現化できたことは大きかった。
- 役員は基本的には住職による選出の方が望ましい。他に優秀な相談役・スタッフを配置できればということはない。
- 周辺から誹謗中傷されないようにするためにはどうしてもヒト・モノ・カネ・情報は重要なツールとなる。特に人材力と経済力がものを言う点は否めない。法力と副業力を身につけていくことは不可欠といえる。

これからの日本の仏教界・宗門を背負っていく20代、30代、40代の方たちへ

- 生き残るための秘策はありません。今、私が提言させていただきたいこと。今より生活を簡素に（シンプルに）しましょう。僧侶の仕事とは、目的とは何でしょうか。私も知りえません。時代時代の変遷の中で、また人によってもお寺によっても千差万別です。但し、僧侶としての矜持きやうじ、これは戒律に基づくものでなければ意味がありません。少しだけ、生活のレベルを下げ、高級車の好きな人はベンツからクラウンへ、クラウンからプリウスへ、酒豪の人はもう少し控えめに、ヘビースモーカー、ギャンブラーはやめる方向で調整しましょう。必ずしも僧侶の仕事は葬儀・法事ではありません。私は日頃の行ないに尽きると思います。

次に人付き合いが繁雑しすぎている今、僧侶の方には人間関係の再構築を提案します。選択と集中をもって残すものは残し、今、目の前にある仕事に徹底して集中していかれることをお勧めします。何か突破口を見出せるのではないのでしょうか。